

# 道

2021・4・28

通信 No 1632



ハボタン

リレーエッセイ 《ロシア民謡との出会い》

テノール 野口政博

小学生高学年の頃、労音のステージにダークダックスがロシア民謡の「ともしび」を美しい声で歌っていただき心に染みました。中学・高校とテレビ・ラジオで楽しみました。大学に入学し友人に新宿の歌声喫茶「ともしび」に誘われ再びロシア民謡に出会い、よく通うようになりました。

友人は合唱団に入っていましたので私も入団しました。2年生の1年間「オペラのマエストロ」菊地彦典（よしのり）先生に師事。奥様はプロのソプラノ歌手で「蝶々夫人」を歌って下さりました。その時古い教室の窓ガラスがガタガタと音を立てたのはビックリしました。（プロはすごい！）

両先生はイタリアにオペラ留学で行かれました。後任には「炎のマエストロ」小林研一郎先生に3年、4年と2年間ご指導いただきました。この時期酒をおぼえ、新宿の歌声酒場「どん底」に通い「オバちゃん」のアコーディオンでロシア民謡をよく歌いました。

63歳で会社を後継者にバトンタッチし合唱団に3団入りしました。71歳で合唱団「道」に出会いロシア民謡を歌い楽しんでいます。ありがとうございました！

《投稿》 バスの福本三朗さんから頂いていたものを連載します。

=40年前のロシア= N01

ソ連邦が1991年崩壊して早や30年、1917年社会主義革命から100有余年、大きく変貌するロシア。今やモスクワやサンクト・ペテルブルグなど大都市はパリやローマなどの西欧と変わらぬ雰囲気醸し出している。街中には通りに張り出したレストランやコーヒーショップでゆったり過ごすことができる。またマクドナルド・スターバックス・丸亀製麺やコンビニもあって、社会主義国を訪れたという違和感はないだろう。ストリートミュージシャンが奏でるロックを始めとする音楽は夜遅くまで鳴り響き、特に5月末からの白夜の季節は不夜城と化する。

では40年前はどうだったのか？

そのときの留学経験や駐在員からの情報をまとめるとおおよそ次のようになる。資本主義から革命を経て社会主義へ、

さらに共産主義へと発展する理想社会の創出へ。

人民皆平等を標榜し、資本家も貴族階級も存在しない。

当時ソ連はロシアと周辺14共和国で構成され、東欧諸国は“東側”と称され、“西側”ヨーロッパと厳密に区別されていた。

つづく。



《会議のお知らせ》

運営委員会 5月5日（水） 午後2時30分～5時 県民サポートセンター 708号  
企画選曲委員会 5月12日（水） 午後3時～5時 県民サポートセンター